緊　急　事　態

関係者各位

「カシノナガキクイムシ」という害虫が発生しています。この虫は、特にナラの大木の中で大集団の繁殖を行い、その際に病原菌を大量に感染させることで、樹木を枯死させてしまいます。（ナラのほか、シイ、カシでも繁殖を行います）

また、翌年には、更なる大繁殖（１０倍を超える）を行います。

特に大木を好む性質がありますので、以下のような症状が見受けられましたら、すぐにご連絡下さい。

○　木の幹にたくさんの穴があり、新しい木くずが見受けられる。

○　木の幹の穴に“つまようじ”を差し込むと、途中でグッと止まる感じがする。

○　周辺に同じように穴のあいた木や、枯れた木がある。

平成１７年８月　日

カシノナガキクイムシ対策会議

- 京都府　京都林務事務所
  林業試験場
- 京都市　林業振興課
- 独立行政法人　森林総合研究所　関西支所
- 林野庁　近畿中国森林管理局　京都大阪森林管理事務所

（連絡先　京都大阪森林管理事務所
村上、藤田
tel 075-414-9831
fax 075-432-2375）

（参考：状況写真）

カシノナガキクイムシが繁殖のために木に穴を開けて入り込んだ様子

- 一面穴だらけである
- 木は枯れてしまうが、早期に発見すれば、周囲への被害拡大がくい止められる。
- ナラ、シイ、カシなどの、ドングリの実る木に被害がある。

- コナラは樹皮がごつごつして穴は見つけにくいが、粉状の木くずで判断できる。

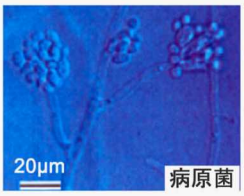
（参考：枯死のメカニズム）

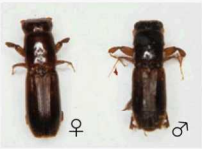
里山林の病気：ナラ類の集団枯死

落葉ナラ類が病気で枯れる

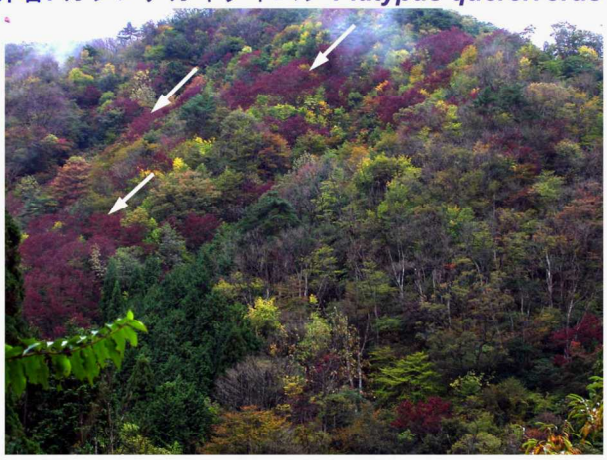
01

被害木: ミズナラやコナラ (*Quercus* 属) などの健全木
病原体: 糸状菌 ***Raffaelea quercivora***
媒介者: カシノナガキクイムシ ***Platypus quercivorus***





菌を運ぶ
カシノナガキクイムシ



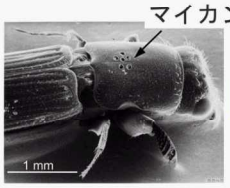
ミズナラ

枯死の起こり方

02

春

- 多数のカシノナガキクイムシが健全木の幹に孔道（トンネル）を掘り、産卵します。
- 病原菌は雌の背中にある菌嚢（マイカンギア）に入った状態で樹幹内に持ち込まれます。



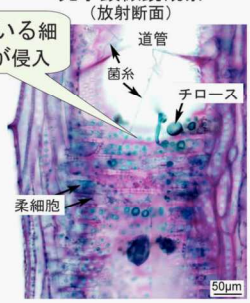
集団加害

夏

- 菌糸が孔道内で伸長し、辺材が褐色に変化します。
- 樹液の流動が止まり、水不足で葉がしおれ、赤くなります。
- ７月～10月に枯死します。

感染による辺材の変色
（傷害心材）

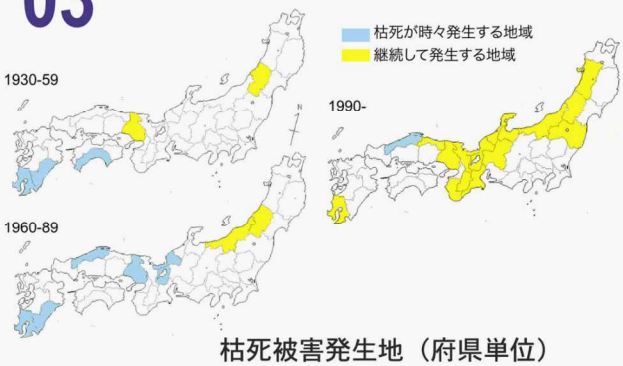
光学顕微鏡観察
（放射断面）



- 菌が感染すると樹木組織では抵抗反応がおこりますが、菌の繁殖を止めることができません。
- 材の変色部では樹液を上げる機能がなくなるので、水不足になります。

なぜ枯損が終息しないのか

03



枯死被害発生地（府県単位）

被害増加の要因

- かつて薪炭林は定期的に伐採されていましたが、最近は利用されずに放置されています。高齢で大径になったナラ類樹木はカシノナガキクイムシの繁殖に適しています。
- 公園整備などの目的で、大径木を残す施業が行われています。大径木にカシノナガキクイムシが集中侵入し、大繁殖します。
- カシノナガキクイムシの個体数が増えてしまうと、高樹齢の大木を病原菌の感染から守るのは困難になります。枯死木の周辺ではナラ類樹木が集団で感染して枯れます。

作成：森林総合研究所関西支所